

『共生・協働』でまちづくり vol.31

『共生・協働』とは、自治会やNPO法人・ボランティア団体・企業等多様な主体（パートナー）と行政が相互の理解と信頼のもと、目的を共有し、連携・協力して地域の公共的な問題の解決を目指すことです。

曾於市内でも「共生・協働の地域社会づくり」を進めていますが、市民の皆さんにも理解を深めていただくため、地域づくりやボランティアに意欲的に取り組む団体の活動等を紹介します。

『自治会再生に“若手”奮起』

坂元榎木段村づくり委員会 大隅町坂元

坂元榎木段自治会は、大隅町の北部に位置し、県道 63 号志布志福山線沿いにある 46 戸 100 人余りの中規模の自治会です。これと言った文化的名所等はありませんが、団結力は自慢できる自治会です。

公民館がない時代、公民館建設 5 年計画をたて毎年の納税報奨金・各戸から甘藷 2 俵の基金、不足分は各世帯からの負担金で自力による公民館を建設したとのこと。お互い余裕のない生活ではあったようですが「なんとかしてでも自分たちの公民館を造りたい」というみんなの願いと意欲・協力の力がありました。

周囲をボラ層におおわれた土地条件の悪い畑作地帯の農村でありながら、昭和 34 年に県の畑作総合指導地の指定を受け、和牛を中心とした畑作営農の改善の結果、農道の整備・土地条件の改良・近代経営への基盤づくりに成果が出て、和牛の品質改良に対する意識が高まり農業所得も倍増となりました。こうした活動が認められ、県内一の優秀自治会として折り紙がつけられました。

昭和 50 年頃発足した村づくり委員会が長く途絶えていましたが、平成 11 年に再結成しま

した。現在の構成は、50・60 代が主力で 40 代が若手メンバーです。主な活動としては、①地域の活性化づくり、②環境整備、③交流会活動を重点に実施しており、特に交流会活動として、花見は勿論、11 月に開催している第 10 回を数える秋祭りは、食事をしながらゲームや抽選会などをして親睦を深める自慢できる村づくり行事の一つです。

しかしながら、過疎化による高齢化はかなり深刻な問題になっていることから、委員会ではメンバーの篠原氏が気軽に話せる場として自宅庭に建てた「憩の家」を借りて、「自治会再生へ」を合言葉に頻繁に会合を重ね活性化対策について話し合っています。

本年度は 30 年ぶりに公民館と納骨堂にある記念標柱を建て替えました。材料の原木の切り出しから加工建立まで手づくり。また、3 年前から植え始めたそばで、年末には年越しそばを作り全世帯に配布し大変喜ばれました。

今後は、委員会のテーマである「結ぶ手が明日の農村を興すかぎ」のもと、出身者呼び戻し作戦により子どもや若者が増えて、にぎやかな村づくりを目指します。



記念標柱建替作業



秋祭りでのレクリエーション



そばの種まき作業